

情報研究



目次

〈特集論文〉

- 郵送調査における返送日数に関する分析
—「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の
消印日付の活用— 松本 渉
- 質問形式による無回答率の差と生活満足度の変化
—高槻市民郵送調査の累積データの基礎分析—
阪口 祐介
- COVID-19の流行が中心市街地の評価に与えた影響
—「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の
事例から— 築山 宏樹

〈論文〉

- 個人情報収集と活用に対する期待と不安の実態
：Web 調査結果からの考察 古賀 広志

DX による地域デザイン構築のプロセス

- ：北海道更別町におけるスマートシティの取り組みの事例
橋本 英重・大木 裕子・古賀 広志

新型コロナウイルス感染症に関する意識の規定構造

- 2021年全国郵送調査を用いた属性・政治的態度・
価値観の効果の検討— 阪口 祐介

乱気流時代の台湾企業

- 繁栄と自立を求めて— 施 學昌

〈研究紹介〉

- とある認知心理学者の自分語り 佐々木 恭志郎

『情報研究』 論文特集について

紀要編集委員会では、学部内での研究交流を目指し『情報研究』を改革してまいりました。55号より「論文」以外にも、「研究紹介」「ゼミ紹介」「自著紹介／書評」の三種類の原稿を掲載しております。

さて、この度、もう一つ別の企画を実施できることになりました。多くの学会誌において、論文の「特集」が組まれることがあるかと存じます。そこで『情報研究』でも57号、58号と連続で特集を組むことになりました。学部内における教育・研究を理解する一助になると考えております。

企画意図についての詳細は、企画者である社会調査実習運営グループの先生にご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

今後も、先生方の中で特集企画があれば、委員会までおっしゃっていただけますと幸いです。

紀要委員会 2023年5月

特集「社会調査実習」にあたって

関西大学総合情報学部において、「社会調査実習」の授業が始まったのは2011年度のことで、す。「社会調査実習」の授業は、単位を修得しても学部の卒業所要単位には算入されるものではありませんが、社会調査士カリキュラムのG科目「社会調査を実際に経験し学習する科目」に認定され、その資格を取得するにあたっては必要とされています。

「社会調査実習」の授業においては、毎年、高槻市との共同で「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」を実施し、その調査の結果を分析するということを繰り返してきました。具体的な調査の項目は、年度によって異なっているものの、共通する調査項目もあり、大きな枠組みとしては同一の郵送調査が10年以上継続されてきました。

調査の結果は、毎年、社会調査実習報告書 (http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_inf/ug/certificate/social_research.html) 等で公表され、その上で、高槻市の広報誌や施策検討の基礎資料、また履修学生のレポートや卒業論文などに活用されていましたが、データとして、もっと活用する価値があるのではないかといったご意見をご担当の先生から頂いたこともありました。データの利活用の重要性が叫ばれる昨今の風潮もあります。

もともとこの調査で得られたデータを研究の形で利用することは、当初から想定されていましたが、実際には、「きっかけ」でもないと活用しにくいのも確かです。そこで、このたび本

誌において、教員による分析の結果を用いた研究論文をまとまった形で発表していくことにしました。学会誌のような外部の媒体の方が目に触れるのにはよいのですが、学部において取り組んできた営みであることに配慮し、学部紀要への掲載といたしました。幸いにも、これまで担当された先生方の多くは、現在では各大学で常勤教員として活躍されるようになっています。本学の常勤教員の他にも、そういった先生方にも執筆をお願いいたしました。

今号においては、3点の論文が掲載されています。松本論文では、調査票の返送に要する日数とその要因について分析しています。阪口論文では、調査実施方法等の不変性を生かし、質問形式の変更が与える無回答率への影響に加え、生活満足度の長期的変化について分析しています。築山論文では、COVID-19の流行が中心市街地に対する市民の評価に与えた影響を分析しています。それぞれ扱う題材は異なっていますが、どの論文も複数年度にまたがるデータを活用した分析を行っているという点で共通しています。継続調査としての特徴を生かしたものであり、今回の特集ならではの醍醐味と言えるのではないのでしょうか。

社会調査実習運営グループ

2023年5月

目 次

〔特集論文〕

郵送調査における返送日数に関する分析

—「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の消印日付の活用—
…………… 松本 渉 …… (1)

質問形式による無回答率の差と生活満足度の変化

—高槻市民郵送調査の累積データの基礎分析— …… 阪口 祐介 …… (21)

COVID-19の流行が中心市街地の評価に与えた影響

—「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の事例から— …… 築山 宏樹 …… (45)

〔論 文〕

個人情報収集と活用に対する期待と不安の実態

：Web 調査結果からの考察 …… 古賀 広志 …… (61)

DXによる地域デザイン構築のプロセス

：北海道更別町におけるスマートシティの取り組みの事例 …… 橋本 英重 …… (81)
大木 裕子
古賀 広志

新型コロナウイルス感染症に関する意識の規定構造

—2021年全国郵送調査を用いた属性・政治的態度・価値観の効果の検討—
…………… 阪口 祐介 …… (103)

乱気流時代の台湾企業

—繁栄と自立を求めて— …… 施 學昌 …… (123)

〔研究紹介〕

とある認知心理学者の自分語り …… 佐々木 恭志郎 …… (141)

執筆者（掲載順）

松本	涉	関西大学総合情報学部教授
阪口	祐介	関西大学総合情報学部教授
築山	宏樹	慶応義塾大学法学部准教授
古賀	広志	関西大学総合情報学部教授
橋本	英重	ミッドメディア有限公司代表取締役
大木	裕子	共立女子大学ビジネス学部教授
施	學昌	関西大学総合情報学部教授
佐々木	恭志郎	関西大学総合情報学部准教授

情報研究

第57号

2023年7月20日

編集

関西大学総合情報学部

〒569-1095 大阪府高槻市霊仙寺町2丁目1番1号

発行

関西大学

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 06 (6368) 1121 (大代表)

印刷

尼崎印刷株式会社

〒661-0975 尼崎市下坂部3丁目9番20号

関西大学

総合情報学部紀要編集委員会

JOURNAL of INFORMATICS

Volume 57

July 2023

CONTENTS

- Analysis of Days of Returns in Mail Surveys
Utilization of postmark dates of the “Takatsuki Citizen Mail Survey by Takatsuki City and Kansai University”
Wataru MATSUMOTO
- The Differences in Non-Response Rates by Question Structure and Changes in Life Satisfaction: Descriptive Analyses of Repeated Cross-Sectional Data Obtained from the *Takatsuki Citizen Mail Survey*
Yusuke SAKAGUCHI
- The Impact of the COVID-19 Pandemic on the Evaluation of City Centers:
A Case Study Based on the “Takatsuki Citizen Mail Survey by Takatsuki City and Kansai University”
Hiroki TSUKIYAMA
-
- Expectations and Concerns Regarding the Collection and Use of Personal Information:
Considerations Based on the Results of a Web Survey
Hiroshi KOGA
- The Process of Regional Design Construction by Digital Transformation (DX):
A Case Study on Sarabetsu Village in Hokkaido as a Smart City Initiative
Hideshige HASHIMOTO Yuko OKI Hiroshi KOGA
- The Social Determinants of Public Responses to the COVID-19 Pandemic in Japan
Yusuke SAKAGUCHI
- Taiwanese Companies Seeking Prosperity and Independence in Turbulent Times
SHYI Shae-Chang
-
- Research Introductions
Kyoshiro SASAKI

FACULTY OF INFORMATICS
KANSAI UNIVERSITY